

令和2年度
大津市立日吉台小学校
学校評価書

【評定】 A:目標を上回る達成

B:目標を達成または概ね達成

C:目標を達成せず

中項目	小項目	自己評価		現況	意見、提言等	今後の学校改善に向けて
		小項目評価	評価			
学び合い	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの良い所見つけや学級での親睦を深める活動を通して、互いに認め合う学級の支持的風土づくりの推進と個々の自尊感情の向上に努めた。 ・限られた条件の中ではあるが、各教科で子ども達同士が聴き合う活動を設定し、学びが深まるように努めた。 ・全学級での授業公開を計画し、様々な教科を窓口として研究主題に迫る授業を行い、互いの授業から教師も学びを深めた。 ・「聴き合うこと」についての各学年の目指す子どもの姿を設定した。その姿を念頭においた、日々継続性のある研究を推し進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観でも子どもたちが自分たちで発表している時の生き生きとした姿が印象に残っている。制限の多い中でも機会を作ってあげてください。（「成功体験」が「自己肯定感」につながるように。） ・今年度は、参観させていただく機会が少なかったが、どの学年も工夫された授業を見せていただいた。子ども達も熱心に学習に取り組んでいた。 ・聴く力をつけることが大事だと感じている。「聴き合う力」向上への取り組みをよろしく願います。 ・コロナといえながら、この少人数の日吉台小で実践できなければ、永久に無理。方法はあるはず。 ・話し合う為のまず第1が、相手の目を見て聞くこと。「相手の目を見て」相手の気持ちになってそして、認め合い、思いやる風土が生まれてくる事を期待します。 ・子ども同士が聴き合う活動は、今後も続けていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いを認め合い、一人ひとりが大切にされる支持的風土のある学級作りに努める。 ・個々の自尊感情の向上を図るために、具体的な方策を立てて取り組む。 ・「聴き合うこと」についての各学年の目指す子どもの姿の見直しを図り、様々な学習場面で、常にその姿を念頭におきながら、「聴き合う力」の向上を目指した授業づくりに取り組む。 ・さらに深まりのある研究にするために、授業の事前研究の時間を計画的に実施し、複数の職員で指導案の検討を行う。 ・研究協議会では、成果と課題を明確にし、次へつながる継続した研究の推進に努める。 ・教材研究や校内研究の時間を十分に確保できるように、校内の環境作りや働き方改革に努める。 ・年度当初に各学年で設定した「聴き合うこと」について、全学年で共通理解し、縦のつながりを考えた系統性のあるものにしていく必要がある。
	2 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善	B				
	3 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会	B				
道徳教育	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科道徳科として、道徳の教科書及びノート、付属のDVDを活用して、週一時間の道徳の授業を確保できた。 ・作成した教材や資料を学年ごとに保存し、次年度からも共有して使用できると良い。 ・授業の構成や道徳ノートの活用の仕方などについて、教師間で教材研究を行う機会をもてるようにする。 ・今年度は、道徳の授業公開ができなかったため、10月に取り組んだいじめ防止につながる道徳の授業の様子を、「道徳通信」にのせて保護者にお知らせした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1時間の道徳の授業を是非確保していただくと共に、実際の子ども達の日々の生活の中で、機会を捉えた指導を確実にしていただきたい。 ・道を記すことは難しい。知識の充実と共に、できるだけ広範囲に目を向けた研修等、大変と思いますが、外部の人との接触を多くしていただければ。 ・子ども達の成長過程で、悩みや迷い等、いろいろあります。最後に本人が判断を下すとき、人生の先輩である大人(家庭、地域、学校)の方々のほんの一言が、子ども達にとって非常に大きな力になると思います。「道徳」ではないですが、一つの言葉が大きな励みになります。「たてわり活動」もすばらしい取り組みだと思います。 ・いじめ防止に、注力していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業の確実な実施と、人権週間やいじめ防止啓発月間の取組を引き続き行い、道徳的実践力を育む。 ・作成した教材や資料を学年ごとの棚に整理したり、授業後の板書を記録としてデータに残したりして、次年度以降も共有して使っていけるようにする。 ・研究発表会や研修会に参加した教師は、資料や指導案を持ち寄り、よりよい授業を展開することをめざして研鑽を深める。 ・年に一回、道徳参観を実施し、保護者や地域に開かれた道徳教育を目指していく。
	5 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	C				
	6 保護者等への道徳科の授業公開					
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナウイルス対策のため、昨年度行っていた異学年同士で遊ぶ回数はできなかったが、体育委員会主催の「スポーツ記録会」を設け、全校が無理なく楽しく体力向上ができる企画を実施できた。 ・運動会は体育発表会という形ではあったが、感染対策をしながら子どもたちが力を精一杯出せるよう、各学年の教師で知恵を出し合うことができた。 ・休み時間の体育館開放は、体育委員会が昨年よりも意欲的に取り組めたので、どの学年も均等に雨の日でも遊ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の代わりに体育発表会ができたことは良かった。子ども達の伸び伸びとした姿が見られた。 ・運動が得意な児童が楽しめるような授業、イベントをよろしく願います。 ・今年の運動会は、「体育発表会」にかわり、子ども達も少し戸惑った感じであったが、みんな元気ががんばっていてよかったです。 ・無理なく、楽しく、体力向上ができる工夫を、今後も願います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走大会や体育発表会は、感染対策をしながら実施することができたため、児童の運動能力だけでなく、自信や意欲向上も図ることができた。今後も引き続き継続していく。 ・体育委員会主催のイベントでは、感染症を対策を行いながら、どの子も参加しやすく、楽しめる活動を今後も考える必要がある。 ・感染症対策の観点から、学校行事や児童会を使つての運動実践を数多く行うことが難しくなってきた。各学年の体育科の授業改善ができるよう、研修の場を設定していけるとよい。
	8 体力づくりを推進する運動実践	B				
	9 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	B				
指導改善	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教師で指導する(チームティーチング)ことで、困り感のある児童の支援をすることができた。また、実感を伴う活動を取り入れ、具体物や半具具体物を使って学習を進めることができた。 ・学習計画を立て、毎日の学習の様子を掲示することで、児童自身が現在の学びがどの段階にあるのかを視覚的に理解できるようにした。 ・OJT研修において、教室経営や感染症対策を踏まえた環境整備、国際理解教育等についての研修の機会を持つことができた。 ・担任だけではなく、職員全体で全校の児童を見守り、指導や支援を行うことができた。 ・コロナ禍で例年とは異なった仕事が増えたが、地域の方の協力を得て、仕事内容を削減するよう努めた。毎日の時間外勤務を減らすことは難しかったが、それぞれが見通しをもち、時間を意識しながら進めることはできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上への取り組み、指導をお願いします。 ・大変だと思いますが、困り感のある子どもへの支援を今後も願います。 ・iPadが一人一台(4,5,6年生)。時代はすごいです。 ・コロナ禍、年度初めの休校による家庭学習の準備や回収、添削など、先生方には大変ご苦労をいただいたことを感謝致します。 ・「働き方改革」は必要な課題です。子ども達のなりたい仕事で、「先生」が以前から少しずつ低下しているようです。また、最近の調査で大学生の就職活動で「教師」になる人が急降下しています。「ブラック」にならないように、元氣な「心」と「体」が合つてこそ、子ども達に向き合える先生だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の内容を確認しながら、指導方法の工夫や授業改善についても、校内研究会等において検討し、実践につなげていく必要がある。今年度実施できないことが多かった研究協議会の持ち方についても検討し、実施方法を考えていく。 ・OJT研修等、職員研修の場を定期的に設定し、教師力や授業力の向上を図る。 ・ICT機器(GIGAスクール等)を効果的に使うための具体的な研修を行い、児童の学習意欲向上、学力向上につなげていく。 ・地域との協賛する行事や地域人材活用に関する教育活動を、教育課程に位置づけ年間計画をたてる。
	11 教職員の指導力及び組織的な教育力の向上	B				
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	B				

家庭・地域との連携	13	保護者の子育てに対して積極的な支援	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとして地域からの協力・支援が積極的で、各学年の教育課程に位置づけながら進めることができた。 ・保護者や地域の方の支援で支えられている活動が多く、連携が深められている。 ・地域人材活用「学習サポーター」（ひよサポ）等の取り組みについては、今年度は限られた活動になってしまったが、大変効果的であるため、コロナ禍における支援方法等について検討していく必要がある。 ・学校便りや学年通信、HP等で情報発信することができた。 ・毎日のスクールガードの方々の見守りに感謝している。防犯教室では、子ども安全リーダーさんをはじめ地域の方に来ていただき、大変よかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学区HPでも、学校だよりは一定数（50～100人程）の読者があるので、次年度も継続して掲載させていただきたい。 ・HPの学校だよりが更新された際に、メール配信で知らせてほしい。動画の配信も考えていってほしい。 ・コロナ禍で仕方なかったが、学習参観日がなく、特に1年生の保護者にとって、子ども達の学校生活の様子に分からず、不安であったようです。学校公開週間を設け、少人数の保護者に分けて、廊下からの参観ができればよかったと思う。 ・大津市全体や日吉ブロックの中で合わせていくことも大事であるが、日吉台小学校独自で取り組んでいくことも必要。 ・各方面に精通している地域の人材を発掘、活用が必要。 ・最近、通学の子も達が、子どもの方からあいさつしてくれる。以前より増えているように思われる。 ・防犯教室、次年度もぜひよろしくお願いします。 ・家庭・学校・地域が、より密接に連携しながら、子ども一人ひとりを見守っていかれたらと思います。 ・総合的な学習の時間に参加を要請される時は、早い目に連絡をいただいで打ち合わせをさせていただきます。より効果的な授業ができればと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の中に、地域人材を有効活用する指導計画を位置づけ、学年の実態に合わせて効果的な実践を行う。 ・(防犯教室・人権学習・総合学習・生活科等) ・学校と地域とが協賛する行事を年間行事予定に位置づける。 →今年度のような社会状況であることを見据えながら、教育内容を見直し、実施可能な方法を検討していく必要がある。 ・運営協議会で検討された内容を全職員で共有し、考えを練り合う。 ・学校だより、学年通信等の発行に加え、HPの更新を定期的に行うことで充実させ、学校の取組を保護者・地域に伝える。 ・地震等の避難訓練において、地域の自主防災会や消防団の方に来ていただき、この地域としての防災について教えていただくことで、児童の地域における防災意識を高めていけるとよい。 	
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	B				
	15	防災教育の推進・感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	A				
保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	C	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に、日吉中学校の先生に来ていただき、授業の様子を参観してもらったり、3学期の2月下旬には、出前授業を予定している。 ・日吉サミットの打ち合わせ等で、日吉中学校の先生と連絡を取り合っって連携を進めてきたが、今年度は、コロナの関係で、連携を密に進めることは難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校との合同の校外学習等ができず残念でした。 ・日吉台至明こども園と良好な関係を築いてほしい。 ・今年度は、コロナ禍で何もできなかったと思います。4月から「日吉台至明こども園」ができますので、そことの連携ができたらと思います。 ・来年度に向け、新しくできる認定こども園とも交流を深めていただき、今後の日吉台の活性化を図っていただきたい。 ・より良い連携をお願いします。 ・小中連携の方法として、直接の交流は難しいならば、ズームや遠隔方法など工夫していくことも必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の終わりまでに育ってほしい姿を保幼小で共通理解をし、連携を計画的に進めていく必要がある。 ・来年度開設予定の日吉台至明こども園との連携のあり方を考えていく。 ・小学校9年間ですべての力を意識し、小中学校で系統的に実践に取り組む。(可能ならば、小中学校教員のT.Tの実施、教科担任制へのなめらかな接続) 	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	B				
	18	保幼小の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	C				
生徒指導	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見に関わって、報告、連絡、相談を行い、早い段階での組織対応を行った。 ・一ヶ月に一回「キラキラさんチェック」という児童アンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応を行った。 ・問題行動に関しても報告、連絡、相談を行い、早期発見、早期対応を学校全体で行った。 ・スクールカウンセラー来校時には、児童の相談や保護者との個別面談を実施した。また、5年生児童全員を対象とした個別面談や各教室での児童観察を実施した。スクールカウンセラーとの連携により、児童や保護者への対応の仕方についての理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問ができにくい中で、保護者との対応、連携には、ご苦労されたと思います。 ・学級児童数が少ないことで、きめ細かく目を行き届かせてください。 ・お忙しいとは思いますが、今後も子どもの気になる服装、行動、言動に注意をお願いします。 ・引き続き、よろしく申し上げます。 ・コロナ禍で、個別懇談会が持てたことは良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週の打ち合わせや、毎月の児童アンケート、教育相談において、全職員の情報共有を図り、児童理解を深める。 ・学期末などにおいて、その学期の問題行動等について振り返り、次の学期の指導に生かしていく。 ・問題が起こる前の先手の生徒指導を進めていくことが重要である。 ・児童の気になる行動や言動を見逃さず、適時、個別面談やケース会議を設定し、指導支援の方向性を検討する。 ・「報告、連絡、相談」を密にし、職員間における情報共有を図り、組織的な対応を進めていく。 ・「日吉台っ子の約束」を毎月の生活目標に掲げ、児童の学校生活の中に位置づけ、よりよい学校生活がおくれるよう指導していく。 	
	20	生徒指導・教育相談体制を確立と組織的な推進	A				
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	A				
特別支援教育	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	A	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの担任が、個別の指導計画を作成し、日々の指導に役立てることができた。校内で見直し、個別懇談会等で保護者に開示して保護者の思いも反映することができた。 ・環境の変化により、課題が大きくなってきた児童は、複数の教員で対応して支えると同時に、発達相談センターにつないで、子どもを複数の視点から見つめ直すことや保護者の協力を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーという点から、男女の着替えについても、男子用・女児用、その他に別の場所を設け、子どもに選ばせるという配慮も必要。 ・引き続き、よろしく申し上げます。 ・関係機関、保護者ともよく連携して、今後もお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年のうちから、学校生活における子どもの課題や成長の様子を保護者と共通理解し、学校が相談機関として機能した上で、他機関とも積極的につながるようにする。 ・個別の指導計画を活用し、子どもの行動変容に役立った支援の情報を校内で共有し、継続させていく。定期的に保護者と懇談し、一緒に考え、理解や協力を得る。 ・特別支援委員会や就学指導委員会を年間計画に位置づけ、定期的に実施していくことで、計画的・組織的な支援体制を整えていく。 	
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	B				
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	A				
満足	25	児童生徒の学校満足度	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活が楽しい」という質問に肯定的な評価をした児童が9.0%である。一人ひとりの児童に自分のよさを知らせ、児童の自己肯定感・学校満足度をさらに高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活が楽しい」という子どもが多いことは、すばらしいです。 ・学校生活が楽しいのが、一番ですね。 ・あと10%の児童に、家庭・地域との連携を密にするなど、いろんな角度から目を向けていけるよう期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを認め合う学級集団づくりに力を注ぐ。 ・児童が小さな成功体験を積み重ねていくような教育活動を次々と実施する。